

いつもの事だが、「年末」「師走」「歳末」「暮」などの声を耳にすると何となく慌てる。だから悪いという訳ではないが、心身ともに何となく無理をさせられている感を拭い去りたい。人知れず歩く速度も上がる。あれもしたい、これもしたいと思うばかりで実績たるや惨憺たるもの。そんな中で今年も散歩に励んだ。数えてみたら散歩メモも39を数えた。あと一つで40だ。欲は募る。そこで思いついた。近場にあるぞと。それは文京区にある回遊式築山泉水大名庭園 **六義園** (三菱の創業者岩崎弥太郎の別邸) だ。今日は快晴で寒くなりそうだが朝早く起きて今日の楽しみを追いかけようと東京都の特別名勝 **六義園** 逍遥に出かけたのである。今まで、この庭園には数え切れない程、足を運んでいるが午前9時の開門とほぼ同時に入園するのは初めてのことだ。かつて日露戦争勝利の際には岩崎弥太郎が将兵たち3000名をこの庭園に招いて慰労したという。往時の富豪がやることのスケールの大きさに改めて驚く。だから、こうして歩いているといろいろなことが知得できて心豊かな気分になる。

入園口の係の女性は寒さしのぎに窓を閉めて来園者を待っている。近づいたら窓を開けて「おはようございます」と声を掛けてきた。いい気分だ。「おはようございます。今朝は寒いですね。シニアでお願いします」というと「150円です。パンフレットもお持ちください」と笑顔で応じてくれた。手にしたパンフレットに入園記念のスタンプを押す。そのまま左に折れると正面に集会場や茶室として使われている建物がある。



(冬のしだれ桜)

右に折れると黒い門が見える。それを潜ると大パノラマが展開する。まず、この庭園の名物**しだれ桜**である。春、その媚態をこれでもかこれでもかと誇示する六義園のしだれ桜は圧巻だ。しかし、寒い冬にはその面影も無い。枯れた風情のしだれ桜の大木の前に赤い布がかけられた細長の椅子が数脚置いてある。今日は土曜日なので何かパフォーマンスが面白い。その前を過ぎて前進する。芝生に点在する松の緑が晴天に映える。左に木造家屋が見える。**心泉跡**で今は集会場として使われている。右側に広がる池と緑に覆われた島の風景が見事である。ふと見ると白い鳥がいる。実にきれいな鳥だ。向島百花園で見た鳥と似ている。白鷺かもしれない。人の気配で、それを察知したのか、余所行きのかなやかな動きを見せ始めた。シャッター・チャンスを狙ってベスト・タイミングを待つ。それをカメ

ラに収めた。時刻は午前9時20分。園内に人影はほとんどない。晴天、微風、冷気、絶好のカメラ日和である。



(踊る白鷺)

六義園のこの白い鳥は一羽だけではない。彼方此方に数羽はいるらしい。前進する。この庭園の敷地は約3万坪もあるという。四季折々に人々の目を楽しませ和ませてくれる都心のオアシスである。暖かくなるとこの周辺に観光バスが列を成す。今日は冬の訪れを感じさせる素敵な遊歩道を漫ろ歩く。年の瀬の趣が豊かに歩く人を包んでくれる。園丁が枯れ葉をほうきで掃いている。その乾いた音が冬の到来を教えてくれる。前進する。時々池を眺めて佇む。角度を違えると風景が違う。漫然と遊歩道を進む。やがて左に洗面所が見えてくる。こぎれいな建物だ。この庭園にマッチした風情で好感がもてる。前進すると私が好きな吹上茶屋が見えてくる。開店しているが、まだ人影はない。右は池。水面に数羽の水鳥が泳いでいるが、いつもにぎやかに集まってくる鯉の姿はない。抹茶と和菓子のセットが¥500。お土産にと柚子羊羹もある。左へ進むと案内表示があつて右は藤代峠で左はつつじの茶屋と書いてある。間髪入れずにつつじの古木材で作られたといわれるつつじの茶屋方向に向かう。

茶屋から引き返して次は藤代峠に向かう。辺りの草木やそれを覆ったり包んだりしている緑や赤や白や黄や彩豊かになだらかな傾斜地に広がる裾模様を目を奪われる。遊歩道を更に進む。やがて池と池に浮かぶ島の風景が現れる。ここまで来たら池の端の椅子に腰かけて話している中年男性3人の姿が目に入った。大きな声で話しているが、この美しい庭園風景について会話をしている風情はない。無関係の四方山話のようだ。

やけに陽光が明るい。池に沿って遊歩道を進む。紀ノ川という表示板があつた。この庭園は江戸の名園を今に和歌の庭と呼ばれているように和歌とは切っても切れない繋がりがあるという。紀州和歌の浦を模した風景があちこちに見られるという。私はまだ和歌の浦へ行ったことがないから、知ったかぶりできないがこの庭園を歩いていると和歌を詠んでいるような気持ちになってくる。高低あり、曲がりくねった遊歩道を進んでいたら、いつの間にか渡月橋という橋に来ていた。和歌の浦、芦辺の田鶴の鳴き声に夜わたる月の影ぞわびしきの歌から名づけられてという。池に沿って進むと左に茶屋兼休憩所兼売店が見えてきた。人影はまだ無い。いつの事だったか、ここで味噌おでん(¥400)を食べたこ

とがある。美味しかった。名物の**甘酒**は¥250。

改めて池に浮かぶ小島を見る。すぐ近くに表示板があり、**妹山**や**脊山**や**中の島** など島と小山の由来が書いてある。思わずスケールの大きい風景をカメラに収める。金沢の兼六園でお馴染みの**雪吊り**が見える。豪雪から木々の枝を守るための知恵である。英語で何というのかと和英辞典をみたら **stringing up the branches of trees to prevent their being broken by heavy snow** と超説明的な英文があったが**雪吊り**という日本語の方が圧倒的に適語である。



(雪吊り)

園内によく人影が目立つようになってきた。時は午前10時を超えた。次の予定があるので退園の時間である。出口で入った時と同じ受付の女性に「ありがとう」と声をかけたらガラス窓越しに笑顔が見えた。この庭園の正門の道路越えに児童図書出版で有名な**フレール館**がある。見ると、このビルの入口にクリスマスの飾りが残っていた。(石川英夫)